

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	神戸松蔭女子学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	コウベシヨウインジョシガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	青谷 実知代(准教授)
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	18
	受入企業等数	12
	受入企業等名	(株)山陽百貨店、(株)そごう・西武、兵庫信用金庫、神戸信用金庫、播州信用金庫、大阪信用金庫、野村證券(株)、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、(株)ホテルプラザ神戸、高見(株)、(株)ナフコ、神戸トヨペット(株)
	インターンシップの分類	8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	店舗(百貨店や自動車ディーラーなどの小売業、ホテルなどのサービス業など)での接客接待のほか、金融機関ではワークショップや課題解決型のプレゼンテーションなどが行われた。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		1単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		全学共通科目のキャリア系列の選択必修科目「インターンシップ」として実施している。就業体験を通して、自分のキャリアを主体的に考え実行できるようになることを目標としている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	5時間の事前指導の中で、演習形式のビジネスマナー研修のほか、実習先企業や企業が属する業界の研究を行い、プレゼンテーションしている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	5時間の事後指導の中で、自分自身のインターンシップを振り返り、実施内容や学んだことなどを模造紙1枚にまとめている。事後学習の最後にはそれぞれがまとめた内容を発表し、全体共有を行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実習期間中にキャリア教育センター教員が訪問し、学生及び企業担当者と面談を行っている。

要素④	4-1. インターシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1. はい
	4-2. 該当する教育的効果を測定する仕組み	1. アンケートやレポートの作成をインターシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2. 以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前課題として「インターシップで学びたいこと」など3つのレポートの提出を求めている。また、事後課題として「インターシップで学んだこと」など2つのレポートを提出させている。これらのレポートにより、自分自身の成長を実感する機会としている。
要素⑤	5-1. 一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターシップの実施期間を確保していますか。	1. はい
	5-2. 該当する実施期間	1. 連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2. で「1. 連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間以上
	5-2. で「2. 事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. で「3. 複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. 以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施期間5日間以上のみ。実際には5～10日間と差がある。
要素⑥	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1. はい
	6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容	4. 受入企業等も、インターシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2. 以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業側には日々の日誌へのコメントの記入と、全体を通したインターシップ評価票の記入をお願いしている。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://ksw.shoin.ac.jp/kyoumu/kyoumu-info/2017syllabus_u/syllabus_u/syllabus_u201702.pdf
問い合わせ先	大学等名	神戸松蔭女子学院大学
	担当部署名	キャリアサポートセンター
	担当者役職名	
	担当者氏名	岩崎 和彦
	電話番号	078-882-6131
	メールアドレス	syusyoku-csc@shoin.ac.jp